むきばんだ弥生体験カード 01

むきばんだ遺跡 ～妻木晩田遺跡に行ってみよう～

妻木晩田遺跡は、弥生時代の終わりごろ（約2,000～1,700年前）に人々が暮らした大きなムラのあとです。中国の古い歴史書にある、当時の日本のムラの姿を想像することができる国内有数の遺跡です。ムラのはんいは、170ｈａ以上におよび、そのうち152ha（東京ドーム33個分）が国の史跡に指定されています。（南北２ｋｍ、東西1.6kmの山全体が遺跡です。）

このとても広いムラの中には、人々が暮らした場所、亡くなった人をほうむる墓、そして建物の材料や燃料、食べ物を得るために利用した森などがあり、弥生時代の暮らしを知るヒントがたくさん見つかっています。

妻木晩田遺跡の全景

【人々が暮らした場所】

妻木晩田遺跡ではたくさんの建物跡が見つかっています。それらの建物跡から、ムラの人々の住まいとなった竪穴住居、米などを蓄えておくための高床倉庫等の存在が明らかになりました。

当時の人々は、大きな穴をほってその上に屋根をかけた竪穴住居という家に住んでいました。

高床倉庫

【ムラの中の特別の場所】

妻木晩田遺跡では、人々が暮らしていた場所の他、ムラの有力者の墓や環壕とよばれる大きなみぞのあとが見つかっています。

30基以上見つかった墓の中には、四角形の４つの角が飛び出した四隅突出型墳丘墓という墓があります。これは山陰地方と北陸地方でしか見ることのできないめずらしいスタイルのお墓です。それらは、ムラの中でも一番見晴らしのよい場所に作られています。

竪穴住居

墓以外にもムラの特別な場所として、環壕が見つかっています。この環壕は、一番見晴らしのよい丘の一番はしに作られており、その丘を取り囲むように作られたみぞは、はば５ｍ、深

竪穴式住居跡

四隅突出型墳丘墓

見晴らしのよい丘につくられた環壕

はば４ｍ深さ２ｍの環壕

さ２ｍ、直径約65mもあります。佐賀県の吉野ヶ里遺跡ではムラ全体を取り囲むように環壕が作られていますが、ここ妻木晩田では、その環壕の中に建物が立てられていなかったことから考えると、まつりの場所などムラ人達にとって特別な場所であったのではないかと推測されます。

【ムラの人々の暮らし】

遺跡からは、昔の人が建てた建物の「あと」や生活に使った「もの」が見つかります。このような建物の「あと」を「遺構」、生活に使った「もの」を「遺物」といいます。この「遺物」から当時の人々がどのような暮らしをしていたのかがわかります。ここ妻木晩田遺跡で見つかった遺物には、石器、土器、鉄器、銅鏡、玉などがあります。丘の上の妻木晩田遺跡では、他の遺跡から出土する木器や骨角器等は、長い年月の間に風化してしまい見つかってはいませんが、それらを作り出す道具や淀江平野から出土する遺物から、それらを使っていたことを推測することができます。

弥生土器

鉄器

ガラス玉

石器

割れた銅鏡

管玉

木器（木製の鍬）

骨角器（釣針）